

日本社会事業大学

SOCIAL

ソーシャルワーカーズ

WORKERS

2020.12

vol.18

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆

利用者に寄り添い、その人らしい生活ができるよう
医療と福祉を地域につなぐソーシャルワーカーに



こころの病を抱えた方やそのご家族の背景・ストーリーをみつめ
一人一人の希望に合わせた支援を行う
ソーシャルワーカーを紹介します。

INTERVIEW

OG 飯田 絵里さん

株式会社 円グループ 相談支援事業所 暖
(計画相談支援/地域移行・地域定着支援) 所長

INTERVIEW

OG 矢尾板 彩夏さん

医療法人社団 欣助会 吉祥寺病院
相談室 精神保健福祉士



あらゆる現場を経験された先生方から
教えていただいた支援への考え方が
今の仕事に繋がっています



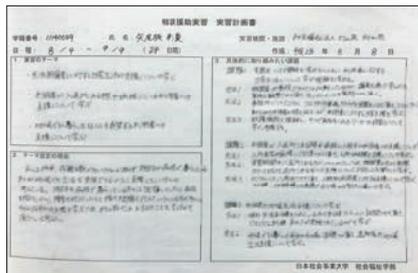
2018年3月
社会福祉学部 福祉計画学科 卒業

06 やおいたあやか
矢尾板 彩夏さん

医療法人社団欣助会 吉祥寺病院
相談室 精神保健福祉士



矢尾板さんと吉祥寺病院で働く精神保健福祉士の皆さん。院内外の様々な職種・機関の方と連携を取りながら、患者様への支援にあたっています。



矢尾板さんが2年生の時に書いていた実際の実習計画書。実習を通して学んだことを、グループワークを通して先生や友人たちと議論を重ねていたそうです。

一人一人とじっくり向き合う
病棟で働く精神保健福祉士

幼い頃からの経験から、一人でも多くの困っている方の力になりたいという思いで福祉系の大学を選びましたと話す矢尾板さん。日本社会事業大学卒業後は、病院の精神保健福祉士として働いています。

「精神科の慢性期病棟のソ

矢尾板さんのある一日

- 8:45 ○ 出勤、病棟の申し送りに参加
- 9:15 ○ ソーシャルワーカーの朝会
(1日のスケジュールの共有、昨日のインシデント・アクシデントの共有、その他連絡事項など)
- 10:00 ○ 患者様と外出
(グループホーム見学同行)
- 12:00 ○ 帰院、ケース記録記入
- 12:15 ○ 昼休憩
- 13:00 ○ 入院対応
- 14:00 ○ 患者様・ご家族・地域支援者を含めたカンファレンス
- 15:00 ○ 院内関係者(ドクター、ナース、ソーシャルワーカー)のカンファレンス
- 16:00 ○ 患者様と面談
(適宜ご家族・地域支援者等と電話連絡を行う)
- 17:00 ○ 退勤

(日によって業務内容は変わります)

「元々は福祉の制度に興味を持ち、福祉計画学科に入学した矢尾板さん。しかし、2年生の時に先生が紹介してくれた生活保護の施設での実習が、自分の卒業後の進路の大きなターニングポイントになったと話してくれました。『その施設には、精神障がいを持ちながらも地域での生活を目指している方が多くい

らっしゃいました。その方たちとお話するうちに、精神保健福祉士として直接関わらせていただける場で働きたいと考えるようになりました』

「迷い続けてもいい」
そう教えられた大学時代

在学中は、先生からたくさん悩んでほしいと言われていたと語る矢尾板さん。「さまざまな背景を持つ患者様がいらっしゃるので、この支援には正解がありません。だからこそ自分の価値観にとらわれないことが大事だと知りました。こういった考え方ができるようになったのも、大学の实習やグループワークを通して、先生や友人と一緒に考え、とことん語る機会があったからこそだと思います」



日本社会事業大学はボランティアサークルや福祉関係のアルバイトが盛んだったので学生時代から現場を身近に感じることができました

2008年3月
社会福祉学部 福祉援助学科 卒業

OG ^{い い だ え り}
飯田 絵里さん

株式会社 円グループ 相談支援事業所 暖
(計画相談支援/地域移行・地域定着支援)所長

飯田さんのあゆみ

2008年4月 医療法人社団幸悠会 所沢慈光病院総合支援室に入職

外来インターフや、病棟での退院に向けた相談支援、入退院の調整を行っていました。入ってすぐに担当を持たせてもらいましたが、自分の引き出しや知識が少ないことを感じるが多かったです。でもそのおかげで、欠かさず勉強しなくてはという意識を強く持つことができました。

2011年4月 NPO法人多摩在宅支援センター 円 訪問看護ステーション 元へ転職

当時は訪問看護に特化したステーションでワーカーを募集しているところは少なかったです。そんな中、精神科のソーシャルワークに力を入れている円グループの方針に感銘を受けました。

2012年1月 リハビリセンター 転 開設に伴い異動

一人一人の利用者さんと濃く関わる仕事ことができました。

2018年4月 株式会社 円グループ 相談支援事業所 暖へ異動(グループ会社)



現在は相談支援事業所 暖の所長として、現場の仕事だけでなく職員の管理の仕事もしています。



株式会社 円グループ 相談支援事業所 暖

現在は相談支援事業所 暖の所長として、現場の仕事だけでなく職員の管理の仕事もしています。

「地域移行支援」、退院した方への継続的な支援を行う「地域定着支援」の事業所で活躍されています。以前は病院の精神保健福祉士としても活躍されていましたが、現在は地域の関係機関と連携しながら、その方の暮らしにより密着した支援ができる地域の事業所でケアマネジメントを行っています。

病院での経験を経て
地域で寄り添う事業所へ

日本社会事業大学の卒業生のなかには、地域の事業所で活躍している方もいます。

「株式会社 円グループ 相談支援事業所 暖」の所長である飯田絵里さん。障害者・障害児の方が福祉サービスを利用する際の相談や調整を行う「計画相談支援」、長期入院の方を対象に退院するための準備を一緒に行う「地域移行支援」、退院した

幼少期から身近にあった
「福祉」という存在

おじいちゃん・おばあちゃんっ子で、高齢者との関わりが好きだったと話す飯田さん。小さい頃から老人ホームでのボランティアにも積極的に行っていったそうです。また、もともと人と話すことが好きで、相談に乗る機会が多かった経緯から心理系の仕事に興味を持つようになったといいます。

「昔は国家資格もなかったため、心理系の仕事はとも少なかったです。その中でいろいろ調べていくうちに『精神保健福祉士』の仕事に出会いました。心理と福祉は全く違いますが、これなら自分のやりたいことに近いと感じ、その道を志すことを決めました」

実習と病院の仕事をきっかけに
じっくり向き合う支援の道へ

「精神保健福祉士の資格が取れる大学を調べていく中で、日本社会事業大学を知りました。社会事業大学の道に特化していた点と、他の大学に比べてソーシャルワーカーの就職率が高かった点で選びました。実践的なことも学べるという点も大きかったです」



株式会社 円グループの事業所には、グループ全体の利用者さん手作りの小物も販売しています。



グループ全体の利用者様が描いた絵で彩られたカレンダー。毎年作っていて、絵の選定も職員の皆さんで行っています。2021年版も現在鋭意製作中とのことです。

在学中、4年生の時に行った病院での実習が印象に残っていると話す飯田さん。実際に病棟に行くと患者様と話し関わることでできた経験から、さらに強く精神保健福祉士の仕事を意識するようになったと話していました。精神疾患を抱えた患者様の最初の窓口となるのが病院。その仕事に魅力を感じ、卒業後は病院の精神保健福祉士として働き始めました。

「最初の病院は新しくできた病院だったので、一から作っていいことばかりを感じました。病院が途中から訪問看護も始め、患者様とじっくり向き合える訪問看護がとてもしつかったので、次の仕事は、それに特化した事業所に決めました」

そして地域でソーシャルワーカーに力を入れている「円グループ」へ転職。さらに訪問看護の仕事をもっと深め、できる幅を広げるために「リハビリセンター」の立ち上げメンバーとして、生活訓練の事業にも関わりました。その後、同グループの「相

談支援事業所暖」へ異動。相談支援専門員として、地域全体でその方の生活を支援する仕事に携わり、見方や考え方が広がったと話してくれました。

支援に正解はない それでも私が支援を続ける理由

この仕事の難しいところは正解がないところと話す飯田さん。「支援者の価値観などでも関わり方や支援方針が変わり大変だと感じる時もありますが、その方やご家族にとって良い変化が生まれるとこの仕事をやっていて良かったと思います」

福祉の支援に正解はないが、利用者様だけでなく関係機関の方々も含めた地域全体での支援を今後も続けていきたいと笑顔で語ってくれました。



飯田さんが最初に勤めていた病院で担当していた患者様からいただいたという手作りの革財布。近況報告のお手紙をいただき、今でも交流が続いているそうです。

精神保健福祉とは？

精神疾患による障害を抱えた対象者に寄り添い、自立的な地域生活を送れるよう公私の援助資源やプログラムを活用してサポートしていきます。

Q 精神保健福祉とはどのようなものなのでしょうか？

A 精神保健福祉は社会福祉の領域のひとつで、精神面の健康を損なった人たちの福祉向上に向けた社会的な取り組みを指します。また社会福祉の専門家を「ソーシャルワーカー」といい、精神保健福祉のソーシャルワーカーは、悩みや困難を抱えている人の相談に応じて支援し、その人の周囲の環境や社会に働きかけて悩みや困難を生み出す状況を改善するのが主な仕事です。長期入院をしている人や自宅などで引きこもりを続ける人などさまざまな対象者がいるので、一人一人に合わせた支援やサポートを行う必要があります。

Q 精神保健福祉の社会的な意義と大学の講義について教えてください。

A 長い間、精神障害者は「精神病者」とみなされ、「医療の対象だから福祉の対象ではない」とされてきました。こういった考えは現代社会の変化に伴い、少しずつ変わり始めていますが、これまでのアプローチでは対応できない社会問題や福祉問題が解決されないまま残されています。これらの諸問題に対して、社会的・地域的に解決できるソーシャルワーカーを育てるべく、大学はさまざまな講義や実習プログラムを実施し、在学中の先輩たちも日々勉学に励んでいます。

Q 精神保健福祉の仕事は、具体的にどのようなものですか。資格が必要ですか。

A 精神保健のソーシャルワーカーの資格は「精神保健福祉士」と呼ばれ、国家資格です。また、主な精神保健福祉士の職場としては、精神科のある病院や地域の支援事業所などが挙げられます。病院の精神保健福祉士は入院患者の退院促進と地域移行・定着の支援が主な仕事となり、地域事業所で働く精神保健福祉士はリハビリテーションと地域生活支援が主な仕事となります。精神保健福祉の現場において大切なことは、対象者やその家族とより良い援助関係を築き上げること、そして自立的な社会生活を実現するだけでなくそれを維持できるよう寄り添っていくことです。対象者一人一人が本来持っている長所に目を向け、それを最大限に伸ばし自分に自信を持って生活してもらえよう、ソーシャルワーカーは日々取り組んでいます。